

平成 27 年 8 月 24 日

## 博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号

0927022022

氏 名

小西 佳世乃

論文審査員

主 査(教授)

塚崎 恵子

副 査(教授)

島田 啓子

副 査(教授)

田淵 紀子

### 論文題名

Investigation of the relationship between changes in mothers' perception of infant's behavior and perception of breast milk as insufficient from early postpartum to one month postpartum  
(産後 1 カ月までの母親の母乳不足感と新生児のサインに対する認識の変化)

### 論文審査結果

#### 【論文内容の要旨】

産褥早期と産後 1 カ月における新生児の行動に対する母親の認識と母乳不足感の変化を明らかにし、その関連を探ることを目的とした。独自に作成した質問紙を用いて、母乳不足感と新生児の行動に対する母親の認識を産褥早期と産後 1 カ月の 2 回、無記名自記式調査を行った。研究参加に同意を得た 78 名のうち、条件を満たさなかった 12 名を除いた 66 名を有効分析の対象とした。産褥早期と産後 1 カ月の母乳不足感はそれぞれ  $12.4 \pm 2.5$  点、 $12.1 \pm 3.7$  点であり有意差は認めなかったが、強い正の相関を認めた。産褥早期と産後 1 カ月の得点を平均点を基準に 2 分し、低い群を「母乳不足感が弱い」、高い群を「母乳不足感が強い」とした。産褥早期に母乳不足感が弱い母親は「児の啼泣」と母乳不足感に弱い正の相関を認めた。母乳不足感が強い母親は「授乳回数の増加」「射乳反射がみられない」と母乳不足感に弱い相関を認めた。産後 1 カ月では、母乳不足感が弱い母親は「授乳後の落ち着かない様子」他 6 項目と母乳不足感に相関を認めた。母乳不足感が強い母親は「頻回な授乳回数」「児の啼泣」「人工乳を補足すると児が眠る」「授乳後の落ち着かない様子」「人工乳を補足すると飲む」と母乳不足感に相関を認めた。入院中に人工乳を補足した母親は産後早期と産後 1 カ月ともに母乳不足感を強く感じる傾向にあったことから、人工乳の補足は慎重に行なう必要性が示唆された。また、母乳不足感の程度によって新生児の行動に対する理解に違いがみられ、さらに母乳不足感は母親の体の変化とも関連を認めたことから、母親の新生児に対する行動や自身の身体の感じ方への変化を考慮した知識提供の重要性が示唆された。

#### 【審査結果の要旨】

公開審査では研究のオリジナリティ、具体的な支援内容、母乳不足感の変化した母親の特徴、母乳育児に対する研究者の見解について質疑がなされ、これらに対する応答内容、さらに口述発表も適切であった。本研究は尺度を開発して前向き研究として挑戦的に取り組んだものであり、その知見から更なる研究の探究課題が明確になったと同時に、臨床への提言が具体化されたことは意義があると考ええる。以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士(保健学)の学位を授与するに値すると評価する。